

よみがえる富士見の原始古代



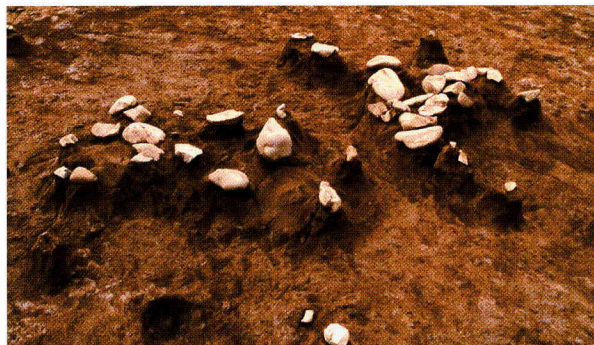
左上:水子貝塚公園 左中:打越遺跡 左下:松ノ木遺跡 右上:南通遺跡 右下:北通遺跡

◆旧石器時代 ～氷河期に生きる～

35,000～16,000年前

日本で最も古い旧石器時代は、氷河期にあたります。地球規模の寒冷化のため、海水面も現在と比べて100m以上低く、東京湾も陸地でした。富士山などの火山活動も活発化しており、降り積もった火山灰が堆積し、後に関東ローム層となります。そのため旧石器時代の遺構や遺物といった生活痕は、このローム層中から発見されます。道具は土器が発明される以前なので、ナイフや槍などの石器・木器・骨角器が主だったものでした。富士見市内では約35,000年前を最古として、多くの遺跡が見つかっています。

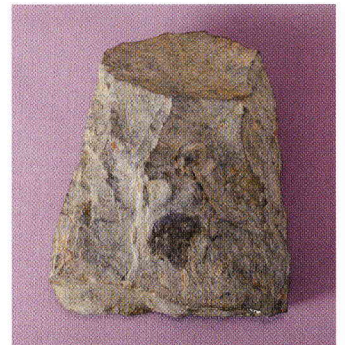
【市内の旧石器時代の主な遺跡】中沢・外記塚・宮廻・西渡戸・羽沢・上沢・山室・黒貝戸・宿・谷津・ハケ上・本目・松ノ木・打越・氷川前・栗谷ツ・北通・貝塚山・西ノ原・権平沢



礫群(西ノ原遺跡)
調理施設と考えられています。



谷津遺跡出土の石器
(約35,000年前)



打越遺跡出土の石器
(約33,000年前)

◆縄文時代 ～ 森と海の恵み ～

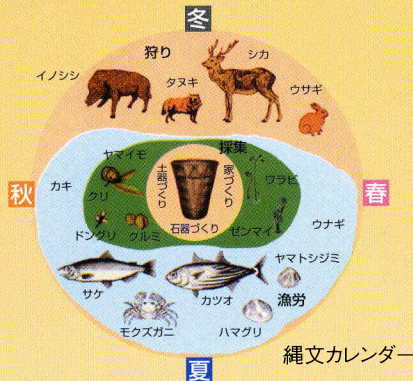
15,000～2,300年前

氷河期が終わり次第に温暖化が進み、動きの素早い小動物が増えると、狩猟の道具に新たに弓矢が発明されます。また、土器が発明され、煮炊きという調理方法が加わり、食生活も大きく変わります。この土器の形や文様の変化から、縄文時代は6期（草創期・早期・前期・中期・後期・晩期）に区分されています。縄文時代早期末～前期には温暖化に伴う海水面の上昇（縄文海進）がピークに達し、富士見市の東側半分の荒川低地には海が広がりました。森林資源に加え海産資源にも恵まれた武蔵野台地縁辺部には、水子貝塚のような貝塚など多くの遺跡が集中しました。

【市内の縄文時代の主な遺跡】中沢・稲荷前・宮廻・羽沢・宮脇・黒貝戸・殿山・谷津・御庵・新田・ハケ上・本目・節沢・松ノ木・打越・松山・氷川前・水子貝塚・観音前・正網・栗谷ツ・別所・北通・南通・貝塚山・権平沢



羽沢遺跡第40号住居跡と一括出土した中期の土器（県指定文化財）



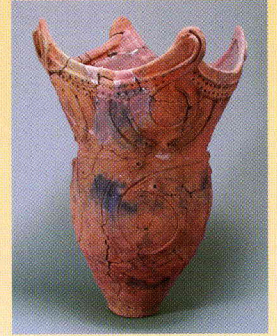
草創期の土器と石鏃など（ハケ上遺跡）



早期後半・条痕文期の打越式土器(打越遺跡)



前期・関山式の土器（打越遺跡）



後期・称名寺式の土器（貝塚山遺跡）

◆弥生時代 ～ 米づくりと暮らしの変化 ～

2,300～1,700年前

弥生時代は、約600年間続き、前期・中期・後期の3期に区分されています。縄文時代の晩期に九州へ伝わった水田稲作と金属器の技術は、東へ伝播し、富士見市では中期から認めることができます。稲作は食生活に安定をもたらしますが、同時に土地や水をめぐる争いを引き起こします。村の周囲には防護のための堀を巡らす「環濠集落」が見られるようになります。市域では柳瀬川に沿った針ヶ谷地域や水子地域の南部に弥生時代の遺跡が集中しました。

【市内の弥生時代の主な遺跡】打越・氷川前・観音前・東台・別所・北通・南通



住居跡から出土した炭化米

村の周囲を巡る環濠（南通遺跡）



発見された方形周溝墓(上)と出土した壺と鉄剣(右上下)（市指定文化財）(北通遺跡)



◆古墳時代 ～カマドと土師器～

4世紀～7世紀

古墳時代は、畿内で大和朝廷が成立し、権力の象徴として古墳が築造されました。その傾向は、各地の豪族においても見ることができ、埼玉県ではさきたま古墳群を始め県北地域に多くの古墳が確認できます。市内では貝塚山古墳で鉄刀や人骨が発見されています。又、鉄製農具の普及やカマドの出現により、人々の暮らしに大きな影響を与えました。

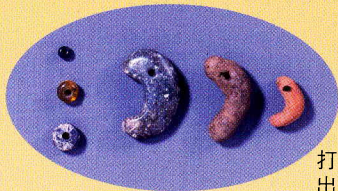
【市内の古墳時代の主な遺跡】黒貝戸・本目・打越・氷川前・東前・観音前・東台・別所・北通・南通・上内手・山形・貝塚山



富士見市にあった古墳(貝塚山遺跡)と出土した鉄刀(東京国立博物館所蔵)



竪穴住居跡(観音前遺跡)



打越遺跡・南通遺跡から出土した勾玉・小玉



住居跡内に設けられたカマド(上)と廃棄された土師器(氷川前遺跡)

◆奈良・平安時代 ～須恵器と窯～

8世紀～11世紀

律令制度の施行がすすみ、地方は国・郡・郷の行政組織に区分され、富士見市は武蔵国入間郡に属しました。市内各地でも開発が進み、集落跡や生産遺跡などが増加していく傾向があります。この時代、土師器・須恵器・金属器が使われ、市域の集落でも製作されるようになり、人々の生活は向上していきます。市内では栗谷ツ遺跡において須恵器の窯跡が発見されており、宮脇遺跡や氷川前遺跡などでは工房跡が発見されています。

【市内の奈良・平安時代の主な遺跡】中沢・外記塚・宮廻・宮脇・黒貝戸・殿山・谷津・御庵・本目・松山・氷川前・水子貝塚・東前・観音前・東台・正網・栗谷ツ・別所・北通・南通・上内手・山形・東久保南



須恵器を焼いた窯跡(栗谷ツ遺跡)



鎌・刀子・鍬などの鉄製品(東台遺跡)



吉祥句や、所属を表す入間郡の「入」の1字、名前などを記した須恵器や土師器は文字の普及を物語っています。

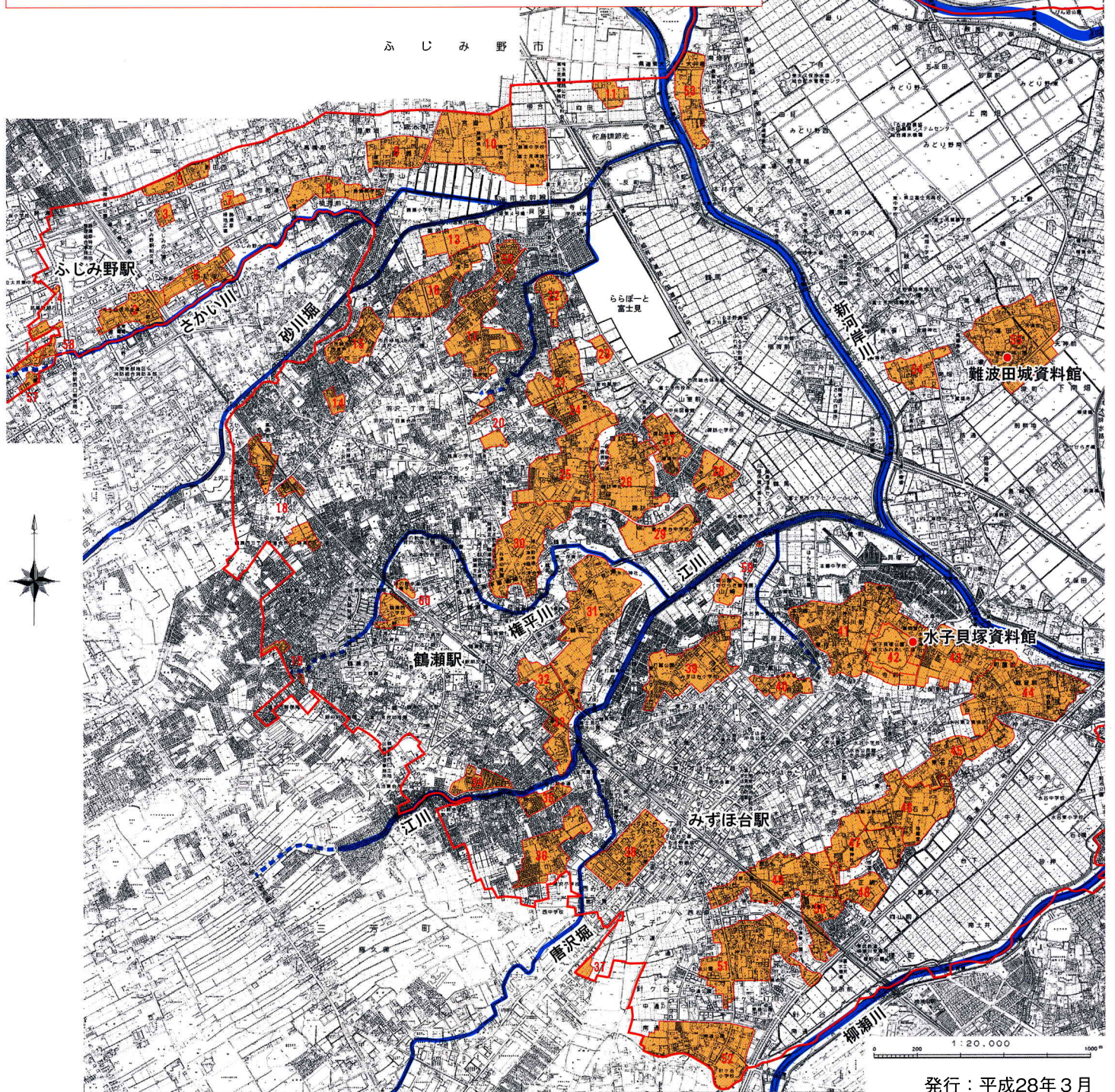


密教法具を造った鋳型(宮脇遺跡) 鋳造工房があったのでしょう。



「風」の字のような形をした陶硯(風字硯)(栗谷ツ遺跡)

富士見市は、新河岸川と荒川により形成された標高6m前後の沖積低地と標高20m前後の武蔵野台地からなります。台地は、東西に貫流する新河岸川の支流により浸食され、小さな谷が入り組む複雑な地形をしています。台地縁辺部の豊富な湧水や河川は豊かな自然環境を育み、人類にとって住み良い環境にあったようです。市内には、台地縁辺に沿って現在約60か所に及ぶ遺跡が確認されています。



発行：平成28年3月

- | | | | | | | | |
|------------------|--------|---------|-------------|---------|--------|--------|--------|
| 1：オトウカ山 | 2：中沢 | 3：稻荷久保南 | 4：南武蔵野 | 5：稻荷久保北 | 6：外記塚 | 7：市街道 | 8：稻荷前 |
| 9：鍛冶海戸 | 10：宮廻 | 11：伊佐島 | 12：一（欠番） | 13：薬師前 | 14：西渡戸 | 15：渡戸 | 16：東渡戸 |
| 17：羽沢 | 18：上沢 | 19：浅間後 | 20：羽沢前 | 21：山室 | 22：大谷 | 23：山室谷 | 24：平塚 |
| 25：宮脇 | 26：黒貝戸 | 27：折戸 | 28：宿（多門氏館跡） | 29：殿山 | 30：谷津 | 31：御庵 | |
| 32：新田 | 33：八ヶ上 | 34：本目 | 35：節沢 | 36：関沢 | 37：新開 | 38：松ノ木 | 39：打越 |
| 40：松山 | 41：氷川前 | 42：水子貝塚 | 43：東前 | 44：観音前 | 45：神明 | 46：東台 | 47：正網 |
| 48：正網南 | 49：栗谷ツ | 50：別所 | 51：北通 | 52：南通 | 53：上内手 | 54：山形 | |
| 55：難波田氏館跡（難波田城跡） | 56：貝塚山 | 57：西ノ原 | 58：東久保南 | 59：山崎 | 60：権平沢 | | |